

核不拡散・保障措置・核セキュリティ連絡会セッション

原子力における2S（原子力安全と核セキュリティ）インターフェイス
実現のための提言

Challenges and Proposal for Implementation of Nuclear Safety and Security (2S) Interface

(4) 2S インターフェイス机上訓練

(4) 2S interface desktop exercise

*出町 和之¹, 鈴木 美寿², 高田 孝², 木村 祥紀², 中村 陽², 鈴木 正昭³, 成宮 祥介⁴, 宮野 廣⁵
¹東京大学, ²原子力機構, ³東京理科大学, ⁴関西電力, ⁵法政大学

机上演習（Table Top Exercise: TTX）とは、参加者が実際に身体を動かすことなく、時間経過とともに変化する模擬的な状況を想定・付与して行う訓練と定義される。想定・付与された状況での対応や意思決定を試験することで、刻々と変換する被害状況等を具体的にイメージし、迅速かつ的確な対応や意思決定を学ぶことが可能となるのが特徴である。

物理的防護システムを評価するための TTX では、「原子力施設の既存の防護システムに対する敵対者の攻撃をシミュレートし、システムの基本機能にあたる「検知」「遅延」対応」の性能・有効性を総合的に評価することが目的となる。TTX では盗取・妨害破壊行為等の事象発生後を含めた施設の防護性能を分析することができるだけでなく、施設の安全分野の緊急時対応等も含めて総合的にシステム性能を評価することができる。

机上演習の最も重要な目的は、役割、責任、優先度、悪意行為によって事象が発生したときの対応責任を持つ各組織活動と設備の活用について、鍵となる参加者の相互理解を確立することである。これを理解することは、悪意行為を想定した演習における対応を成功させるに役立つものとなる。

従来、原子力プラントの安全担当者と核セキュリティ担当者との間では、例えば「情報公開」と「機密保持」といった性質上の違いから十分な情報交換・意志交換が行われていないという事例もあった。今回、ここで設計する机上演習システムは、安全担当者と核セキュリティ担当者とが、共に参加するように設計することで、両者が相互協力して共通の課題に取り組み、核燃料施設・RI 施設・原子力施設における安全・核セキュリティ性能向上のための対策を議論することができ、両者の十分な情報交換・意志交換を促進することに貢献できると期待する。

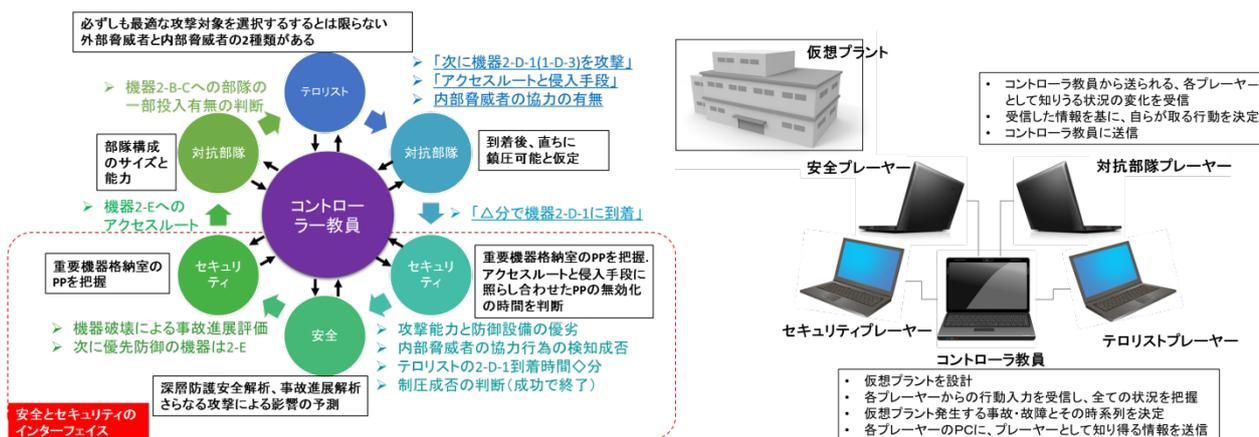


図 1: 机上演習プレイヤーとその役割 (案)

図 2: 机上演習プレイヤー間の情報伝達ツール (案)

*Kazuyuki Demachi¹, Mitsutoshi Suzuki², Takashi Takata², Yohiski Kimura², Yo Nakamura², Masaaki Suzuki³, Yoshiyuki Narumiya⁴ and Hiroshi Miyano⁵

¹The University of Tokyo, ²Japan Atomic Energy Agency, ³Tokyo University of Science, ⁴Kansai Electric Power Company, ⁵Hosei University